

第2次奈良市食育推進計画評価シート(平成28年度)

事業		内容	担当課	平成27年度実績	平成27年度評価	平成28年度実績	平成28年度評価
親と子の食育推進	食育に関する講座の実施	地域子育て支援センター・つどいの広場・子育てスポットすくすく広場・子育てスポットにおいて食育に関する講座を実施する。	子ども育成課	「栄養士を囲んだ座談会」、「離乳食体験会」、「離乳食から幼児食への移行」など、各広場で様々な講座を企画し、実施している。	利用者からは概ね好評であった。今後も利用者のニーズに合わせて各広場で企画し、実施していく。	「食育相談」、「離乳食講座(時期別)」、「野菜の収穫」など、各広場で様々な講座を企画し、実施している。	利用者からは概ね好評であった。今後も利用者のニーズに合わせて各広場で企画し、実施していく。
	公民館等における料理教室や食に関する講座の実施	公民館事業としての料理教室などを通じ、参加者に食への関心を深めていただくとともに、健全な食生活への取組みを啓発する。	生涯学習課	料理教室などを通じ、参加者の食への関心を高める講座や、食をとおした家族・参加者のコミュニケーションを図る講座など、健全な食生活への取組みを行った。(参加者数は、見込) ●子ども対象 6施設、8講座、18回実施、のべ286人参加 ●親子対象 11施設、20講座、27回実施、のべ592人参加 ●一般対象 15施設、24講座、49回実施、のべ804人参加	平成27年度は、19の公民館で52の食・農に関する多彩な講座を開催することができた。また、連続講座のなかでも食に関して学習する回を設けるなど、幅広い取組みができた。 講座は、対象を親子・父子・祖父母と孫、男性・女性、シニア、20～30代などと細かく設定し、それぞれの対象のニーズに合わせた内容にするとともに、対象者が参加しやすいような工夫を行った。 今後も、食育ネットや食に関する団体等とのつながりを活かしながらか引き続き取組みを進める。	料理教室などを通じ、参加者の食への関心を深める講座や、食をとおした家族・参加者のコミュニケーションを図る講座など、健全な食生活への取組みを行った。(参加者数は、見込) ●子ども対象 6施設、6講座、14回実施、のべ157人参加 ●親子対象 13施設、20講座、30回実施、のべ700人参加 ●一般対象 14施設、30講座、58回実施、のべ874人参加	平成28年度も、19の公民館で56の講座を開催することができた。 対象を「子ども」「親子」「父子」「子どもと祖父母」「男性」「女性」と細かく設定し、それぞれの対象者が参加しやすいような工夫を行ったため、多くの方に参加いただくことができています。 また、対象者のニーズに合わせた多彩な内容の講座を開催することができ、好評であった。 56講座の他、連続講座のなかでも食に関して学習する回を設けるなど、幅広い取組みができています。 今後も、食育ネットや食に関する団体等とのつながりを活かしながらか引き続き取組みを進める。
	各種健康づくり教室の実施	妊婦・乳幼児・成人を対象に各種健康教室において、栄養・食生活に関する知識と情報を提供する。	健康増進課	妊婦対象の教室(調理実習含む)では42名、両親教室では223名、乳幼児対象の教室では823名の参加があった。	幼児教室では、毎回多くの参加があり広く知識と情報を提供できている。調理実習を含めた妊婦教室は参加人数が減少しているため、次年度以降両親教室のみの開催となる。	母親教室や離乳食教室、にこにこ奈良ごはんや健康NARA講座、出前講座を通じ、栄養・食生活に関する知識と情報を提供した。 1月末までの実績として、母親教室145名、離乳食教室571組(そのうち個別相談131件)、にこにこ奈良ごはん6回で延べ615名(うち1回は親子対象)、出前講座4回に120名、健康NARA講座11回に203名の参加があった。	妊婦・乳幼児向けの健康教室は参加人数の減少がみられるものの、個別相談件数が増え、きめ細かい支援を行うことができています。今後教室に参加していない市民へのアプローチ方法も検討する。成人向けの健康講座では生活習慣病と食生活に関する講話を実施している。奈良市ポイント制度の導入もあり、参加人数は増えてきている。今後も若い世代が自身の食生活を振り返る機会を提供していく。
乳幼児健康診査時栄養指導の実施	成長過程で生じる食に関する問題や個々の不安を解消し、正しい食習慣の確立を支援するため、個別栄養相談を実施する。発達時期に合わせた栄養・食生活情報を提供する。	1歳7か月児健診受診者2468名のうち個別相談を152名、3歳6か月児健診受診者2443名のうち個別相談を107件実施した。		乳幼児健診では毎年250名前後の個別相談を行っている。また1歳7か月児健診ではほぼすべての受診者に対し、集団で情報提供と悩みの共有を行っている。今後はわかりやすく情報提供を行うため、媒体の充実を図る。	1月末現在、1歳7か月児健診受診者2060名のうち集団指導は全数、個別相談は90名に実施。3歳6か月児健診では、受診者2007名のうち64名に個別相談を実施した。	1歳7か月児健診受診者への集団指導では、発育曲線の活用や飲料摂取の注意点を内容に取り入れ、効果的な指導を行っている。乳幼児健診の個別相談件数は減少しているが、3歳6か月児健診での肥満児の割合が12月現在で1.5%であり、平成26年度の2.3%、平成27年度の1.9%よりも減少しているため、支援の必要な生活を送っている子どもが減少していると思われる。	
保育所・幼稚園での食育推進	保育における食育推進	食育指導の目標を設定し、保育所及び認定こども園における食育の推進を図る。	こども園推進課	本年度子ども未来部が作成した「奈良市立こども園カリキュラム」に基づき、各園が各年齢別に食育目標を設定した。	奈良市立園としての食育カリキュラムを作成し、各園が現場に応じた食育目標を設定し、「食育計画」を作成することができた。	「奈良市立こども園カリキュラム」に基づき、各園が各年齢別に食育目標を設定し、取り組み内容および保育者の支援内容を記した食育計画を作成した。	各園が現場に応じた食育目標を設定し、食育計画を作成、実施することができた。
		食に関する指導計画を作成し、望ましい食習慣を身につける保育を展開する。	こども園推進課	各園が各年齢別に取り組み内容および保育者の支援内容を記した食育計画を作成した。			
	PTA、保護者会との連携による研修会の開催	PTAや保護者会と連携して研修会を開催し、家庭での適切な食習慣の実践を支援する。	こども園推進課	各園で地域の人々や保護者と連携し、給食の試食会や夏祭り等イベントを実施した。	給食の試食会では、咀嚼力や味覚の発達に応じた食材の固さや味付けを体感してもらい、給食への理解を深めてもらうことができた。また、イベントでは、子どもたちと一緒に食べる楽しさを体感してもらえた。	各園で地域の人々や保護者と連携し、給食の試食会や夏祭り等イベントを実施した。	給食の試食会では、咀嚼力や味覚の発達に応じた食材の固さや味付けを体感してもらい、給食への理解を深めてもらうことができた。また、イベントでは、子どもたちと一緒に食べる楽しさを体感してもらえた。
	保育所職員研修	職員を対象にした研修により必要な知識や情報を習得するとともに各園の取り組みについて情報共有を行い、各職員の専門性を活かした食育を実践する。	こども園推進課	他機関が実施する研修会の受講および会議への参加に留まった。各園では、園医や薬剤師を講師として食物アレルギーに関する研修会を実施した。	各園での研修会では、エビペンの取り扱いや食物アレルギー対応に関わる知識を習得することで、各園での食物アレルギーに関わる体制の整備に繋がった。	他機関が実施する研修受講及び会議での園の相互の取り組み共有に留まった。	職員に対し、食育に関する研修を実施できていないので、今後実施できるようにしていきたい。
保育所給食を通じた食育啓発	保護者に配布する保育所給食献立表や園だよりで食事バランスや食文化等の食育を啓発する。	こども園推進課	給食献立表や園だよりを通じて保護者に給食使用食材や望ましい食習慣の情報を発信した。また、保護者の給食への理解を深めてもらうために園内で給食の実物展示や掲示を行った。	配布した献立表や各園が実施した実物展示・掲示により保護者に知識提供をすることができた。	給食献立表や園だより、食育だよりを通じて保護者に給食使用食材や望ましい食習慣の情報を発信した。また、保護者の給食への理解を深めてもらうために園内で給食の実物展示や掲示を行った。	今年度より、給食献立表、園だよりに加え、不定期で食育だよりを発行することとなった。より詳細な食育知識を提供することができた。	

	米飯給食の実施	米飯給食などを通じて、栄養バランスのとれた日本型食生活を啓発する。	こども園推進課	6月より全園で主食の提供を米飯を中心とし開始した。旬の食材を使用し、主菜・副菜を組み合わせて提供を行った。	米飯給食を通じ、主食・主菜・副菜の揃った給食を実施することで視覚的な栄養バランスの啓発を実施することができた。また、奈良県産の米を使用することで地産地消を推進することができた。	米飯給食を通じ、主食・主菜・副菜の揃った日本型食生活を保育給食で実施した。	米飯給食を通じた主食・主菜・副菜の揃った保育給食を実施することで視覚的な栄養バランスの啓発を実施することができた。奈良県産の米を積極的に使用することで地産地消を推進できた。
	保育所における行事食の実施	日本の伝統的な食文化や行事食を給食に取り入れ、食体験を進める。	こども園推進課	七夕や節分等の行事食や「のっぺい汁」や「そうめん汁」等の奈良の伝統食を提供した。保護者へは献立表に、また子どもたちへは給食時間に保育士から伝えられるように給食日誌に行事食・伝統食について記した。	保護者や園児が奈良の伝統食や行事食について知ることができた。	七夕や正月等の行事食や「のっぺい汁」や「そうめん汁」等の奈良の郷土料理を提供した。保護者へは献立表に、また子どもたちへは給食時間に保育教諭から伝えられるように給食日誌に行事食・伝統食について記した。	保護者や園児が行事食や奈良の郷土料理について知ることができた。また行事食を取り入れることで季節を感じることができる給食提供ができた。
	菜園活動体験保育及びクッキング保育の実施	園庭などで栽培収穫した野菜やいも等の食材を使い、園児が調理する楽しさや食物に感謝しながら食べる喜びを味わう保育を行う。	こども園推進課	クッキング保育について、園が計画的に安全に留意して実施できる体制づくりをして、マニュアルを作成した。各園で各年齢別に作成した食育計画に基づき、園庭で育てた旬の食材を調理したり、給食に取り入れて喫食した。	園児が食べるまでの過程を体験することにより、食材そのものや食べることに関わる人(調理員等)、調理や食べることへの関心を高め、一緒に食べることで「楽しく食べる」目標を達成することができた。	各園で各年齢別に作成した食育計画に基づき、園庭で育てた旬の食材を調理したり、給食に取り入れて喫食した。また、アレルギー児の増加のため、使用食材を計画段階でアレルギーとならないものにする事及び衛生管理について課より助言を行い実施した。	園児が食材を栽培、収穫、調理するという過程を体験することにより、食材そのものや給食に係る人、調理や食べることへの関心を高めることができた。みんなで作った食事を一緒に食べることで「楽しく食べる」目標を達成することができた。
学校での食育推進	学校における食育推進	学校における食育推進	学校教育課	学校ごとに食育推進年間計画を立て、各学年ごとに実施 家庭科や社会科、特別活動等のカリキュラムに食育の視点を取り入れた授業を実施 企業と連携し、食育出前講座を実施 ゲストティーチャーを招いた学習の実施 校外学習(大和茶研究センター、環境整美工場等)の実施	学年や校区の特徴を生かし、教科と関連付けた食育の取組を進めることができた。 奈良市教育協議会(食育推進部会)において、食育実践事例集を作成し、各学校での取組を共有することができた。 外部指導者を招いたり、現地学習に行ったりすることで、学習の幅が広がった。 より学校の教育活動の中に定着させていくために研究授業や実践発表の工夫を続けていく必要がある。	学校ごとに食育推進年間計画を立て、各学年ごとに実施 家庭科や社会科、特別活動等のカリキュラムに食育の視点を取り入れた授業を実施 企業と連携し、食育出前講座を実施 ゲストティーチャーを招いた学習の実施 校外学習(大和茶研究センター、環境整美工場等)の実施	学年や校区の特徴を生かし、教科と関連付けた食育の取組を進めることができた。 奈良市教育協議会(食育推進部会)において、食育実践事例集を作成し、各学校での取組を共有することができた。 外部指導者を招いたり、現地学習に行ったりすることで、学習の幅が広がった。 より学校の教育活動の中に定着させていくために研究授業や実践発表の工夫や取組を多くの教員が共有する必要がある。
	教科指導における食育推進	教科指導における食育推進		【保健給食課】 発達段階に合わせた食育指導ができた。 栄養教諭・学校栄養職員配置小学校では100%の実施率であった。一方、未配置小学校では55%の実施率であり、格差がある。 【学校教育課】 生活科や家庭科等でのTT授業 教材や資料の提供 給食指導	【保健給食課】 発達段階に合わせた食育指導ができた。 栄養教諭・学校栄養職員配置小学校では100%の実施率であった。一方、未配置小学校では55%の実施率であり、格差がある。 【学校教育課】 栄養教諭や学校栄養職員の専門性を生かした授業展開や指導を行うことができた。 奈良の伝統文化・奈良の生産物に対して、児童生徒の関心が高まるような機会や学習内容を研究していきたい。	【保健給食課】 発達段階に合わせた食育指導ができた。 栄養教諭・学校栄養職員配置小学校では100%の実施率であった。今年度から、栄養教諭・学校栄養職員未配置校の食に関する授業の募集を行ったことで、未配置校での実施率を上げることができた。(H27年度55%→H28年度85%) 【学校教育課】 生活科や家庭科等でのTT授業 教材や資料の提供 給食指導 講師の紹介 栄養指導(アレルギー、スポーツ栄養、肥満等)	【保健給食課】 発達段階に合わせた食育指導ができた。 栄養教諭・学校栄養職員配置小学校では100%の実施率であった。今年度から、栄養教諭・学校栄養職員未配置校の食に関する授業の募集を行ったことで、未配置校での実施率を上げることができた。(H27年度55%→H28年度85%) 【学校教育課】 栄養教諭や学校栄養職員の専門性を生かした授業展開や指導を行うことができた。また、学級担任や教科担当と連携しながら、講師のコーディネートを行った。 今後も、学級担任や教科担当等と連携し、児童生徒の関心が高まるような機会や学習内容を提供していきたい。
	PTA、保護者会との連携による研修会の開催	PTA、保護者会との連携による研修会の開催	学校教育課	保護者対象に給食試食会や調理実習を実施 企業と連携し、食育出前講座を実施	栄養教諭等の話を通して、学校給食への理解や食への関心が高まった。	保護者対象に給食試食会や調理実習、講演会を実施 企業と連携し、食育出前講座を実施	栄養教諭等の話を通して、学校給食への理解や食への関心が高まった。
	食育教育の理解や普及、啓発を目的とした授業参観、懇談会の実施	食育教育の理解や普及、啓発を目的とした授業参観、懇談会の実施	保健給食課 学校教育課	学校給食試食会を実施し、学校給食についての説明や食育の講話を行った。(小学校の実施率91%)	各校の状況に応じて、試食会の際に給食参観や給食室見学も行って、保護者からは「給食の献立を参考に家庭の食事作りを心掛けたい」といった感想が聞かれた。	学校給食試食会を実施し、学校給食についての説明や食育の講話を行った。	各校の状況に応じて、試食会の際に給食参観や給食室見学も行って、保護者からは「給食の献立を参考に家庭の食事作りを心掛けたい」といった感想が聞かれた。
				親子クッキングの実施	親子で一緒に料理をすることで、親子のコミュニケーションがとれた。家でも作ろうと言う保護者からの声もあり好評であった。	各学校において親子クッキングを実施するとともに、夏休みに「学校給食親子料理教室」を教育センターで実施。	夏休みに教育センターで実施した親子料理教室は定員の10倍を超える申し込み数があり来年度も実施予定。料理教室の経験のない栄養教諭・学校栄養職員の研修の場としても有効であった。親子で一緒に料理をすることで、親子のコミュニケーションがとれた。家でも作ろうと言う保護者からの声もあり好評であった。
	職員研修	食に関する指導の公開授業及び研究協議、講演会などを行い、食育指導に関する教職員の指導力向上に努める。	学校教育課	奈良市教育協議会(食育推進部会)において、授業研修2回、食育実践発表会1回実施	授業研修においては、地産地消をテーマに授業を行い、奈良県の食材への関心や地域生産者への感謝の気持ちや高まった。 食育実践発表会においては、ブランド推進課や保健給食課の協力をにより、地産	奈良市教育協議会(食育推進部会)において、授業研修2回、食育実践発表会1回実施	授業研修を小、中学校それぞれ1回実施した。小学校においては、行事食を題材に継承されてきた食文化について学習した。 中学校においては、学校給食を題材に自分に必要な栄養量や日々の食事の重要性について学習した。 食育実践発表会では、栄養教諭による実践発表や各校の

	指導主事による食育指導への指導助言	学校・幼稚園の要請に応じ、指導主事が食育指導の改善、充実、発展のために指導助言を行う。	初任者研修2回、授業研修2回、食育実践発表会1回参加し、指導助言を実施 また、市立学校担当者を対象に家庭科実習に係る研修を実施	地消に対する奈良市の取組や、学校給食の食材について理解を深めることができた。	授業研修2回、食育実践発表会1回参加し、指導助言を実施	食育全体計画を基に実践の交流を行った。 食育推進に向けて、栄養教諭や担当者を中心に児童生徒の実態に応じて、学校全体で取り組んでいくことの重要性を再確認した。
	地元食材を使用した学校給食の実施	新鮮な食材の確保と地域理解(自然、食文化、産業等の理解)を深めるために、学校給食における地元産の農産物及び加工品の使用を推進する。	奈良県産の野菜、果物、きのこ、豚肉、大豆などを学校給食に使用した。 米は奈良県産から奈良市産に変更。 また、学校給食に大和まなや片平あかねなどの大和野菜や大和茶も使用した。	県の補助事業を活用して新たに取り入れた食材があった。 天候不順により、奈良県産を予定していたが提供日を延期したり、国産に切り替えたりしたものもあった。	奈良県産の野菜、果物、きのこ、鶏肉、大豆、吉野葛などを学校給食に使用した。調味料については、市内で製造されたしょうゆ、五徳みそを使用した。昨年度に引き続き米は奈良市産を使用した。また、学校給食に大和まなや片平あかねなどの大和野菜や大和茶も使用した。	地元で栽培や製造された食材を使用するとともに「食べ物紹介」指導資料を作成して給食指導に活用。 郷土料理や伝統食、地域の行事と関係する行事食の提供も行い給食指導を実施できた。
	米飯給食の実施	米飯給食などを通じて、栄養バランスのとれた日本型食生活を啓発する。	週5回の給食のうち、米飯給食を3回実施。給食室で炊飯する自校炊飯をモデル校で導入。 米を奈良県産から奈良市産に変更。	自校炊飯導入校からは好評で米飯の残量が減ったという感想が聞かれた。	週5回の給食のうち、米飯給食を3回実施。給食室で炊飯する自校炊飯を新規中学校給食実施校で導入。	自校炊飯の拡大を図ることができた。
	給食だよりを通じた食育啓発	保護者などに対して望ましい食習慣や健全な食生活を啓発するために、学校給食献立表、食育に関する啓発記事を掲載した給食だよりの配布に努める。	学校給食家庭配布献立表の給食だよりを通じて保護者に向けて食育啓発を行った。また、各種指導資料(食べ物紹介・食に関する指導資料・放送資料)を用いて児童生徒に向けて食育指導を行った。	年間の指導計画に基づいて、家庭配布献立表や各種指導資料を作成し、給食を教材として活用して指導することができた。	学校給食家庭配布献立表の給食だよりを通じて保護者に向けて食育啓発を行った。また、各種指導資料(食べ物紹介・食に関する指導資料・放送資料)を用いて児童生徒に向けて食育指導を行った。	年間の指導計画に基づいて、家庭配布献立表や各種指導資料を作成し、給食を教材として活用して指導することができた。
	「食育の日」「食育月間」の普及啓発	「食育の日」、「食育月間」に関する啓発記事をホームページ・ならしみんだよりに掲載するなどにより食育の周知を行う。	食育実践講座を2回、食育セミナーを1回実施、延べ121名が参加。6月に本庁及びはぐみセンターで通路啓発を実施。	講座では、大学講師・ボランティア・飲食店調理師など、地域の実践者に講師とってもらうことで、単発の講座で終わることなく地域でのつながりが生まれるきっかけとすることができた。参加者アンケート結果から、食育をテーマとした研修をしたいというニーズを得た。	食育セミナー2回実施、延べ88名参加。食育月間である6月に市立図書館で食に関する図書展示とボランティアによる読み聞かせ・本庁及びはぐみセンターで通路啓発を実施。 「東アジア文化都市2016奈良市」イベント食部門との連携により、イベント期間中ならイブライリーに食文化に関する図書を展示。	食育セミナーを参考にする者：第1回 95.2%・第2回 88.5%(参加者アンケート結果)健康的な食事への関心が高まった者：93%(食育カフェ参加者・飲食店を含む) 図書館との連携で食育月間を広く啓発できた。情報発信や啓発、食育新聞の作成など運動した取り組みにより多機関の協力を得ながら啓発ができた。
	特定給食施設指導	健康増進法に基づく特定給食施設などの施設管理者及び給食関係者に対し栄養改善などの指導に努める。	保育園・こども園・児童福祉施設を対象に集団研修を4回実施。栄養に関する指導や食育に関する情報提供を行った。食育グッズの貸出を開始。	こども園推進課管理栄養士と企画することで現場のニーズに応じた内容の研修会が実施できた。児童福祉施設の栄養管理担当者の意識向上・レベルアップが図れた。	保育園・こども園・児童福祉施設を対象に食物アレルギーに関する集団研修を1回実施。学校対象の研修会を1回実施。(肥満・やせ児童への対策)	保育園・こども園に対し、市の食物アレルギー対策について情報提供ができた。学校での栄養管理・健康教育において、栄養士・養護教諭・学校医・保護者などの連携の重要性を共有し、肥満ややせの児童に対するモデル的な支援方法を共有できた。
	食育推進イベントの開催	食育の様々な分野を体験できるイベントを関係団体と協働で行い、啓発をする。	すこやかフェスタ2015において、食育に関わる7団体が食育ブースを出展し、市民980名が来場。その他、農林課主催「彩マーケット」で食育ブースを出展。	参加団体の活動の幅を広げるきっかけとすることができた。保健所主催でないイベントへ参加することでより広い市民へ啓発ができた。今後は食育ボランティア団体の主体的な参加につなげていきたい。	食育フェスタ2016開催。奈良市食育ネットに参加する11団体がブース出展し、市民約1000名が来場。飲食店での食育カフェ3回実施、大学生ボランティアが開発したレシピ7品を提供。	食育フェスタの事前にワークショップを開催することで、団体の主体的な参加が得られた。飲食店での食育は、実際に食体験をしながら学んだり交流できる点が魅力的であり、同時に飲食店に対して栄養や健康の情報提供ができる点で環境整備への波及効果が高い。
	食育協働ネットワークの構築(新・計画P10)	食育の推進において、家庭や保育・教育関係・食品関連事業者などが相互に連携し取組みをすすめることができるよう、ネットワークを構築する。	平成27年4月から奈良市食育つながるネット事業を開始。33団体参加(H27.3月末現在)、市のホームページで紹介中。情報交換のための交流会を2回実施、延べ38団体64名が参加。食育メールマガジンを延べ17回・各回約300件送付。食育情報紙を2回作成し配布。参加団体の連携した取組み13件。	庁内及び関係団体の協力を得て、1年で多くの団体に参加いただき、今後連携した取り組みを進めていく上での基盤ができた。交流会や研修会をきっかけに顔の見える関係が生まれ、地域で連携した取組みにつながった。	42団体参加(H28.1月末現在)、市ホームページ・奈良市ボランティアインフォメーションセンターで情報公開。交流会2回、延べ51団体88名が参加。食育メールマガジン16回・各回450件送付(平成29年1月末時点)。食育情報紙2回作成配布。	平成27年度から参加団体が約1.3倍に増え、なら消費者ネットや奈良新聞社など独自のネットワークをもつ団体の参加も得られた。
	地産地消推進のためのイベント開催	新鮮な食材の確保と地域理解(自然、食文化、産業等の理解)を深めるために、イベントなどを通じて地元産の農産物及び加工品の使用を推進する。	11月に複数の農業者団体が生産物を直売する「彩マーケット」、毎土日祝日に農業者団体が生産物を直売する「旬菜メルカート」を開催。彩マーケットは2日間で約3千人、旬菜メルカートは年間1万人弱が来客。いずれも近畿大学ヘルスチーム菜良と協働し、レシピの配布等を行った。	奈良市産の農林畜産物を販売することで地産地消の促進及びPRをすることができた。また、近畿大学ヘルスチーム菜良と協働したことにより、消費者に対し食に関する知識を提供することができた。	11月に複数の農業者団体が生産物を直売する「彩マーケット」、毎土日祝日に農業者団体が生産物を直売する「旬菜メルカート」を開催。また、旬菜メルカートは近畿大学ヘルスチーム菜良と協働し、レシピの配布等を行った。また、食育カフェの「生産者と消費者の交流」をテーマとした回では、旬菜メルカートに出店している生産者団体を招き交流に結びつけた。	奈良市産の農林畜産物を直売することで地産地消の促進及びPRをすることができた。また、近畿大学ヘルスチーム菜良と協働したことにより、消費者に対し食に関する知識を提供することができた。さらに、食育カフェへの参加により生産者・消費者・行政などの複数の立場における食へのアプローチ方法を知ることができた。
生涯を通じての食育推進	公民館等における料理教室や食に関する講座の実施(再掲)	公民館事業としての料理教室などを通じ、参加者に食への関心を深めていただくとともに、健全な食生活への取組みを啓発する。	料理教室などを通じ、参加者の食への関心を高める講座や、食とおした家族・参加者のコミュニケーションを図る講座など、健全な食生活への取組みを行った。(参加者数は、見込) ●子ども対象 6施設、8講座、18回実施、のべ286人参加 ●親子対象 11施設、20講座、27回実施、のべ592人参加 ●一般対象 15施設、24講座、49回実施、のべ804人参加	平成27年度は、19の公民館で52の食・農に関する多彩な講座を開催することができた。また、連続講座のなかでも食に関して学習する回を設けるなど、幅広い取組みができた。 講座は、対象を親子・父子・祖父母と孫、男性・女性、シニア、20～30代などと細かく設定し、それぞれの対象のニーズに合わせた内容にするとともに、対象者が参加しやすいような工夫を行った。今後も、食育ネットや食に関する団体等とのつながりを活かしながらか引き続き取組みを進める。	料理教室などを通じ、参加者の食への関心を深める講座や、食とおした家族・参加者のコミュニケーションを図る講座など、健全な食生活への取組みを行った。(参加者数は、見込) ●子ども対象 6施設、6講座、14回実施、のべ157人参加 ●親子対象 13施設、20講座、30回実施、のべ700人参加 ●一般対象 14施設、30講座、58回実施、のべ874人参加	平成28年度も、19の公民館で56の講座を開催することができた。 対象を「子ども」「親子」「父子」「子どもと祖父母」「男性」「女性」などと細かく設定し、それぞれの対象者が参加しやすいような工夫を行ったため、多くの方に参加いただくことができていた。 また、対象者のニーズに合わせた多彩な内容の講座を開催することができ、好評であった。 56講座の他、連続講座のなかでも食に関して学習する回を設けるなど、幅広い取組みができていた。 今後も、食育ネットや食に関する団体等とのつながりを活かしながらか引き続き取組みを進める。

<p>朝食を中心とした生活習慣に関する情報の発信</p>	<p>生活習慣の改善などや家庭における健康づくりをホームページ・ならしみんだより・リーフレット等による情報発信する。</p>		<p>・パンフレットやリーフレットの配布 妊娠届出、妊婦教室、乳児教室、乳幼児健診、成人向け健康教室など ・展示啓発 はぐくみセンター(常時・月間啓発)、市役所(月間啓発)、すこやかフェスタなど ・ホームページ 妊娠中に気をつけること、離乳食について、食生活のヒント(成人向け情報提供) ・しみんだより 9月号(月間啓発)</p>	<p>リーフレットや啓発媒体による情報発信は、多くの市民に対し行えていると思われる。今後は媒体内容の見直しや健康増進課が相談機関であることの紹介などを積極的に行う予定である。</p>	<p>前年度と同様に実施。 乳幼児時健診同封のリーフレットに加え、各種教室内にて健康増進課が相談機関であることを紹介した。</p>	<p>前年度に引き続き情報発信を行った。 しかし母親教室参加者や3歳6か月児健診を受診した3歳児の朝食欠食率が増加しており、今後情報発信の方法を検討する必要がある。</p>
<p>各種健康づくり教室の実施(再掲)</p>	<p>妊婦・乳幼児・成人を対象に各種健康教室において、栄養・食生活に関する知識と情報を提供する。</p>	<p>健康増進課</p>	<p>妊婦対象の教室(調理実習含む)では42名、両親教室では223名、乳幼児対象の教室では823名、成人対象の教室ではにこにこ奈良ごはん9回で延べ656名(うち1回は親子対象)、スタート講座16回に1074名、出前講座6回に160名、健康NARA講座11回に231名の参加があった。</p>	<p>幼児教室やにこにこ奈良ごはんなど成人向けの教室では、毎回多くの参加があり広く知識と情報を提供できている。成人の教室ではメインテーマが食以外の回にも食に関する情報提供を行うようにし、より多くの市民へ伝えることができた。調理実習を含めた妊婦教室は参加人数が減少しているため、次年度以降両親教室のみの開催となる。</p>	<p>母親教室や離乳食教室、にこにこ奈良ごはんや健康NARA講座、出前講座を通じ、栄養・食生活に関する知識と情報を提供した。 1月末までの実績として、母親教室145名、離乳食教室571組(そのうち個別相談131件)、にこにこ奈良ごはん6回で延べ615名(うち1回は親子対象)、出前講座4回に120名、健康NARA講座11回に203名の参加があった。</p>	<p>妊婦・乳幼児向けの健康教室は参加人数の減少がみられるものの、個別相談件数が増えており、きめ細かい支援を行うことができている。今後教室に参加していない市民へのアプローチ方法も検討する。成人向けの健康講座では生活習慣病と食生活に関する講話を実施している。奈良市ポイント制度の導入もあり、参加人数は増えてきている。今後も若い世代が自身の食生活を振り返る機会を提供していく。</p>
<p>食生活改善推進員支援</p>	<p>食育推進のため、食に関する正しい知識をより多くの人に普及する体制の充実をめざして、食生活改善推進員対象の研修会や活動に対する専門的アドバイスなどを行う。</p>		<p>委託している普及伝達活動に際しリーダー研修の実施、開催場所や広報の仕方を助言。自主活動での献立作成や栄養価計算などの支援を随時行っている。食育講話については内容についての助言を行った。スキルアップのための研修会については食事摂取基準や運動と食事のバランス、歯のメッセンジャーフォローアップ、他のボランティア団体の講義を実施。その他、総会や活動報告会の開催を支援した。</p>	<p>地域のグループにより人数のばらつきがあり、また介護等で活動できない人の増加により、普及伝達活動を安全に運営することが難しいグループが出てきた。研修会や活動に対する助言は例年通り実施した。理事会を通し、一般会員も巻き込んで意見交換を繰り返すことで、食推協の課題が明確化し、食推員が問題を考えるきっかけになった。会員の高齢化により退会者が増えたため、今後の円滑な活動のため食推協の体制を整備しながら、次年度の養成講座で会員の増加及び男性会員の増加を目指す。</p>	<p>普及伝達活動については食推と共にレシピや講話内容の検討を行っている。新規会員の確保と現会員の知識を向上させるために養成講座を実施している。講座の中で養成講座生と会員に栄養価計算の方法を伝え、より質の高いレシピが作られるよう支援している。また外食や中食など現代のニーズにあった内容を普段の活動に取り入れられるよう、企業との共同研修を実施する。研修会については歯のメッセンジャー養成講座を実施し、学んだ内容を踏まえて食育講話で使う歯のシナリオを作成する支援を行った。</p>	<p>食推の体制として、理事などの一部の会員に負担がかかっていることが見受けられる。そのため今回の養成講座では理事以外の会員に毎回の講話を担当してもらい、各自が役割を持つようにした。また理事会や養成講座実行委員会を通じて、各グループで今の食推の課題や解決策について意見交換をしてもらっている。食推1人1人が責任とやりがいを持って、活動出来るよう今後も会議や研修を通じて支援を行っていく。</p>
<p>食の安全・安心に関する情報提供</p>	<p>食品のリスクコミュニケーションに関する説明会などを実施し、食品の安全性に関する情報の提供を行う。</p>	<p>生活衛生課</p>	<p>平成28年2月に奈良県と共催で市民向けに食品表示に関するリスクコミュニケーションを開催。その他、食品衛生講習会を事業者や市民向け等に計13回開催。広報車による食中毒予防の街宣、食中毒予防街頭キャンペーンの実施、啓発グッズの配布、市役所・はぐくみセンターにおける食中毒予防のパネル展示、しみんだより・ホームページ上での食品安全に係る啓発、市役所の広告モニターにおける広報掲載を行った。</p>	<p>平成27年4月に施行された食品表示法の内容を含んだ市民向けの食品表示に関するリスクコミュニケーションの開催は有意義であった。</p>	<p>食品衛生講習会を事業者や市民向け等に計13回開催。広報車による食中毒予防の街宣、食中毒予防街頭キャンペーンの実施、啓発グッズの配布、市役所・はぐくみセンターにおける食中毒予防のパネル展示、しみんだより・ホームページ上での食品安全に係る啓発を行った。</p>	<p>平成28年10月及び平成29年1月に食品表示法の内容を含んだ事業者や市民向けの講習会は、法の概要を説明し周知を図ることができたことから有意義であったと考える。</p>